

DT - 300

LMWIN 操作ガイド

Rev 1.00

目次

1 IO-BOX.....	2
1 - 1 . B.S. (ブリッジ・サテライト) I/O.....	2
1 - 2 . B.S I/O BOX の機能.....	3
1 - 2 - 1 . 機能一覧.....	3
1 - 2 - 2 . ディップスイッチ.....	3
1 - 2 - 3 . LED.....	5
2 . USB/RS-232C ドライバのインストール.....	6
2 - 1 . USB ドライバインストール.....	7
2 - 1 - 1 . インストール.....	7
2 - 1 - 2 . アンインストール.....	17
2 - 2 . RS-232C ドライバインストール.....	18
2 - 2 - 1 . インストール.....	18
2 - 2 - 2 . アンインストール.....	30
3 . WinNT4.0 ドライバのインストール.....	31
4 . アップダウンロードシステム (LMWIN)	32
4 - 1 . LMWIN のインストール.....	32
4 - 2 LMWIN の操作.....	33
3 - 2 - 1 LMWIN のスクリプト作成	33
3 - 2 - 2 LMWIN のスクリプト新規作成.....	34
4 - 2 - 3 LMWIN のスクリプトを開く.....	35
4 - 2 - 4 LMWIN の環境設定	36
3 - 2 - 5 LMWIN の実行.....	37
4 - 2 - 6 LMWIN コマンド	38
4 - 2 - 7 スクリプト実行.....	38
4 - 2 - 8 中断.....	38
4 - 2 - 9 インストール開始.....	39
5 . 注意事項.....	40

1 IO-BOX

LMWINのアップダウンロードシステムが必要になります。
動作環境は次の通りです。

ハードウェア	PC/AT互換機
CPU	i486以上
OS	MS-Windows(NT4.0/2000/ME/XP) ・ Windows 2000 SP3以上 ・ Windows XP SP1以上
ユーザーズメモリ	16MB以上(コンベンショナル 640KB)

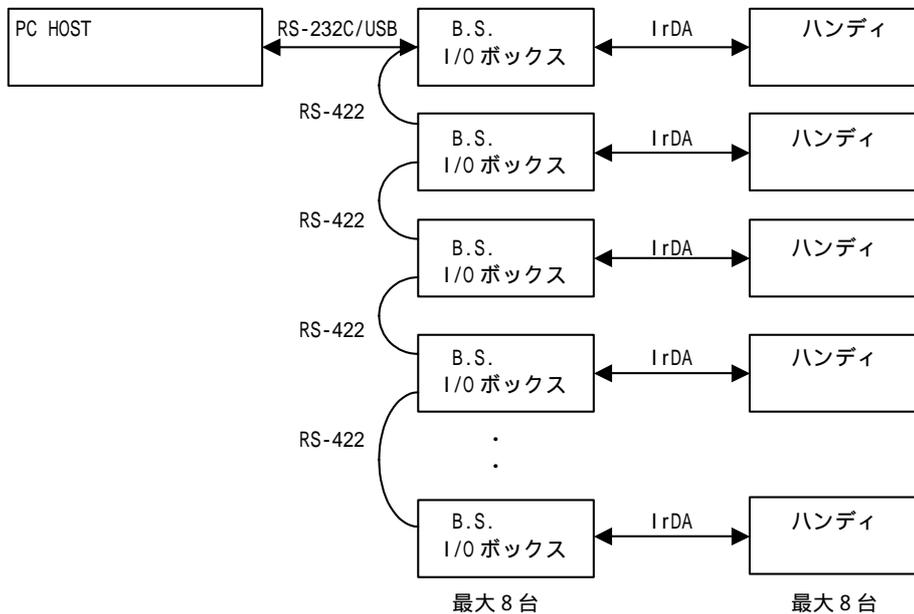
表 1 - 1 LMWINの動作環境

LMWINでは、連鎖接続された複数のハンディターミナルに対する通信が可能です。

1 - 1 .B.S.(ブリッジ・サテライト) I/O

パソコンとUSB/RS-232Cケーブルで接続し、I/Oボックス間はRS-422で接続します。
最大接続数は8台です。

通信を行うには、LMWINの「環境設定」メニューで”B.S./B.B.(IO BOX)”を選択します。



1 - 2 . B.S I/O BOX の機能

1 - 2 - 1 . 機能一覧

項目		仕様		備考
動作環境	HT側	機種	DT-300	
		HT IR速度	FIR 接続時 MAX 4Mbps(USB 単体接続時のみ) SIR 接続時 115.2Kbps	
	I/O BOX 側	USB I/F 仕様	パソコンへ接続し、データの転送を行います。 通信速度:4Mbps	接続前に PC 側に専用ドライバのインストールが必要
		RS-232C I/F 仕様	パソコンへ接続し、データの転送を行います。 通信速度:115.2Kbps	接続前に PC 側に専用ドライバのインストールが必要
		RS-422 I/F 仕様	I/O BOX 間の接続に使用します。 通信速度:115.2Kbps	
運用/設定	運用	ホスト1対1接続	USB/RS-232C 接続	
		連鎖接続	RS-422 接続(最大 8 台連鎖)	
	設定	通信設定	本体裏面ディップスイッチ	
	LED	3 個 赤/緑/消灯/ 点滅	電源状態/通信状態 システム稼働表示用	
	給電	本体給電機能	あり	

1 - 2 - 2 . ディップスイッチ

RS-422 速度切り替え

速度(bps)	bit1	bit2	備考
禁止	OFF	OFF	
115.2K	ON	OFF	115.2Kbps
禁止	OFF	ON	
禁止	ON	ON	

動作モード切り替え

動作モード	bit3	bit4	備考
アクティブ動作	OFF	OFF	ホストコンピュータと接続する。
パッシブ動作	ON	OFF	連鎖接続時の中間(終端)に接続する。
禁止	OFF	ON	
禁止	ON	ON	

終端処理

終端	bit5		備考
通常	OFF		
終端	ON		

ホスト PC I/F

ホスト PC I/F	bit6		備考
RS-232C	OFF		ホストコンピュータと RS-232C 接続する。
USB	ON		ホストコンピュータと USB 接続する。

無効(bit7・8)

リザーブ	bit7	bit8	備考
-	OFF	OFF	未使用。(OFF に固定)

ディップスイッチのデフォルト値は、下記の通りになっています。

ON の DipSW: bit1/5/6

- ・RS-422 速度切り替え: 115.2Kbps
- ・動作モード: アクティブ動作
- ・終端: 終端
- ・ホスト PC I/F: USB

なお、ディップスイッチの設定変更の際は、必ず I/O BOX の電源を切った状態で行って下さい。

1 - 2 - 3 . LED

3つの LED により、I/O BOX の動作状態を示します。

LED	機能名称	状態表示
Line	システム稼働表示用 LED (RS-232C 接続時)	<p>システムが正しく稼働していることを表示します。 HT 本体の装着と関係なく、システムの稼働状況/システムとの通信可否を表示します。</p> <p>消灯: I/O BOX に接続されたすべての HT が非通信。 またはシステム異常 緑色点灯: システムが正しく稼働し、I/O BOX に接続された HT のいずれかが通信中。</p>
	システム稼働表示用 LED (USB 接続時)	<p>システムが正しく稼働していることを表示します。 HT 本体の装着と関係なく、システムの稼働状況/システムとの通信可否を表示します。</p> <p>消灯: I/O BOX が PC と接続されていません。 緑色点灯: I/O BOX と PC が正しく接続されています。</p>
Data	通信状態表示用 LED	<p>HT が通信を行っていることを表示します。</p> <p>消灯: 通信していません。 緑色点滅: 通信中です。 赤色点灯: I/O BOX 間の接続が異常です。</p>
Ready	電源表示用 LED	<p>電源の状態、HT 本体の装着状態を表示します。</p> <p>消灯: 電源 OFF。 赤色点灯: 電源 ON、HT 本体は非装着です。 緑色点灯: 電源 ON、HT 本体が正常に装着されています。</p>

2 . USB/RS-232C ドライバのインストール

ここでは、下記ドライバのインストール手順に関して述べたものです。

- ・ USB ドライバ(IRXpressUSBIrDA.exe)
- ・ RS-232C ドライバ(IRXpressSerialIrDA.exe)

また、USB/RS-232C ドライバでは、インストールする PC により、手順に違いが発生します。

以降、特に表記がない場合は、手順毎に区分し、下記の通りに表記します。

- ・ WindowsMe は、以降「WinMe 系」と表記します。
- ・ Windows2000/WindowsXP は、以降「Win2000 系」と表記します。

手順は、同じでも OS により画面の色調やアイコンの形状等のデザインが異なる場合がありますので、ご注意ください。

WindowsNT4.0 のパソコンについては、このドライバではなく、3 で示す WindowsNT 用ドライバをインストールして下さい。

2 - 1 . USB ドライバインストール

USB ドライバのインストール手順について説明します。

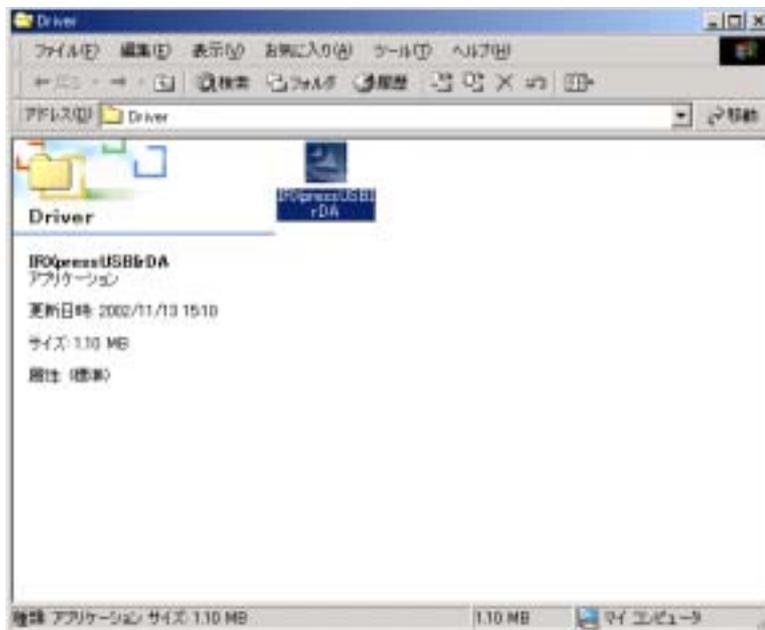
2 - 1 - 1 . インストール

以下の手順で、(1)～(6)の説明は全 OS 共通です。「4-1-1-1.全 OS 共通」をご覧ください。

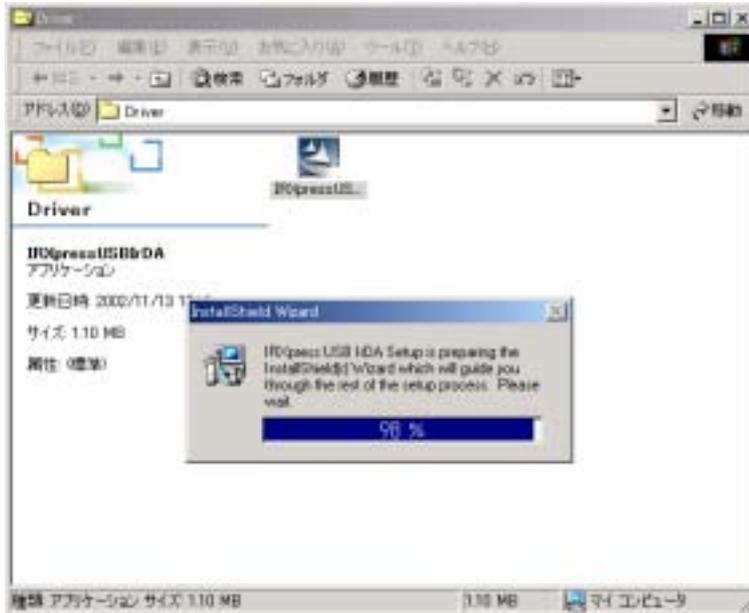
(7)以降の説明は、OS により異なりますので、「4-1-1-2.Win2000 系」と「4-1-1-3.WinMe 系」をご覧ください。

2-1-1-1.全 OS 共通

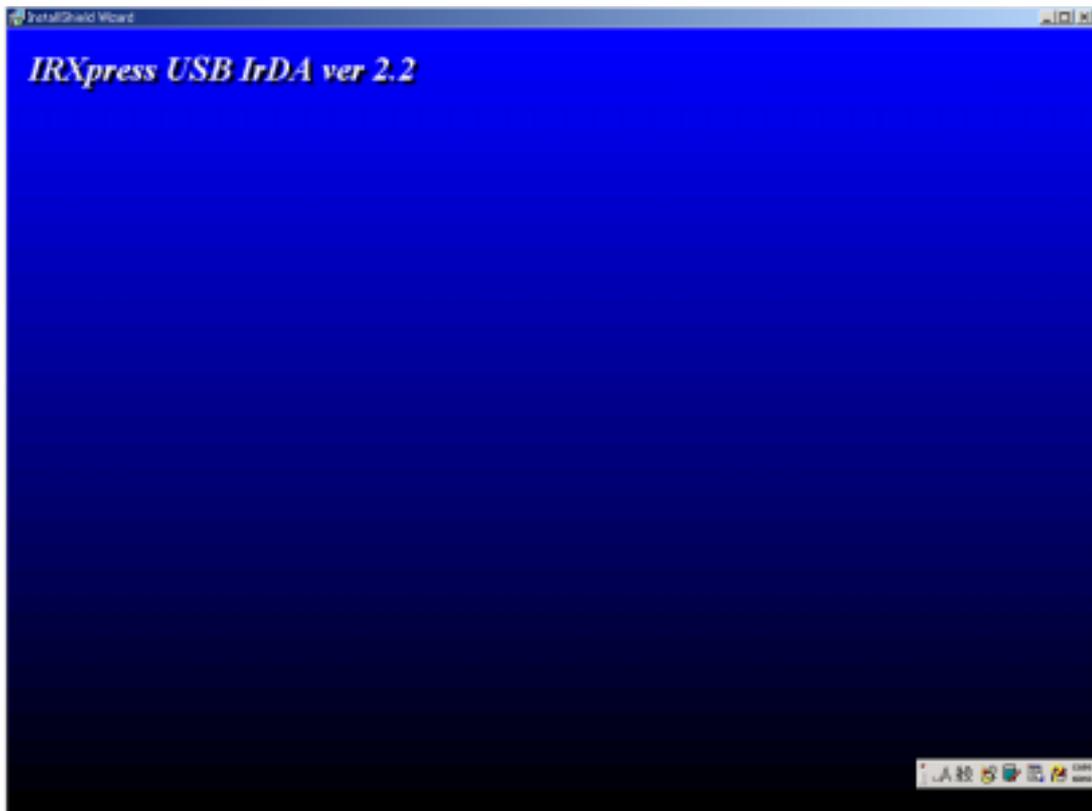
(1) 供給されたメディアから「IRXpressUSBirDA.exe」を起動してください。



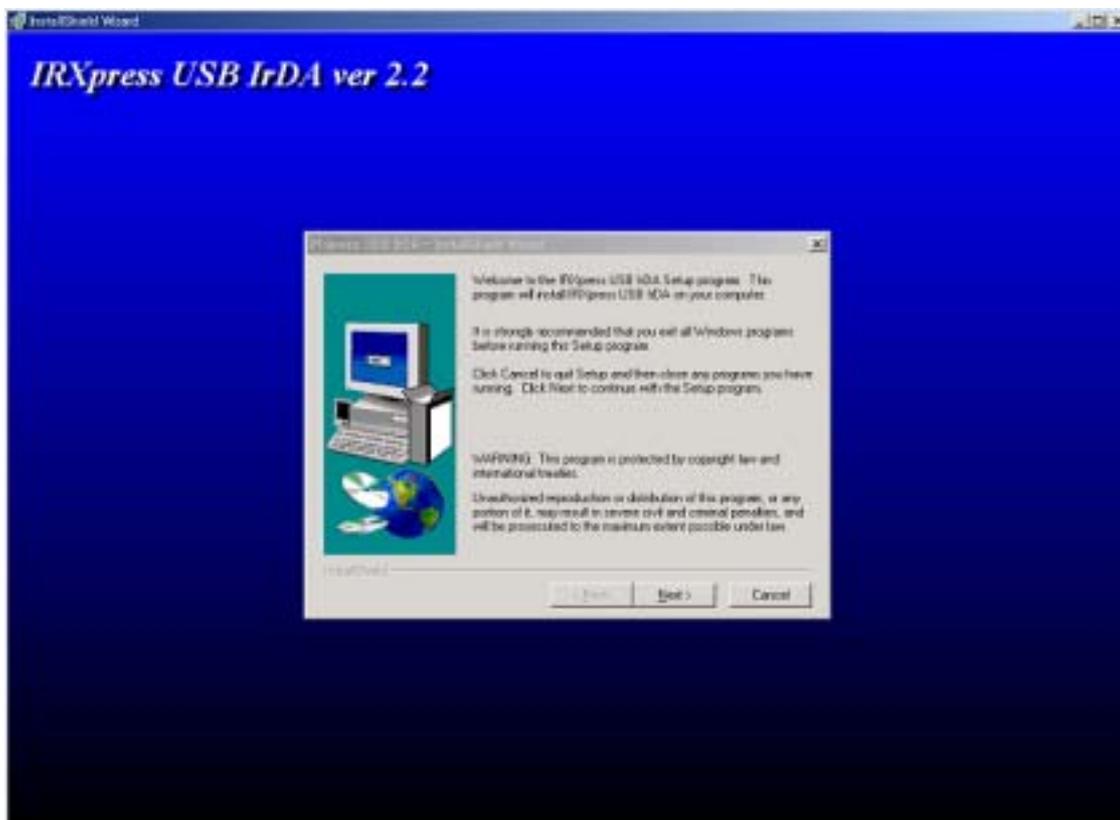
(2) 「IRXpress USB IrDA.exe」を起動すると、「InstallShield Wizard」が準備されます。



(3) 準備が完了すると、バックグラウンドが「InstallShield Wizard」画面に切り替わります。

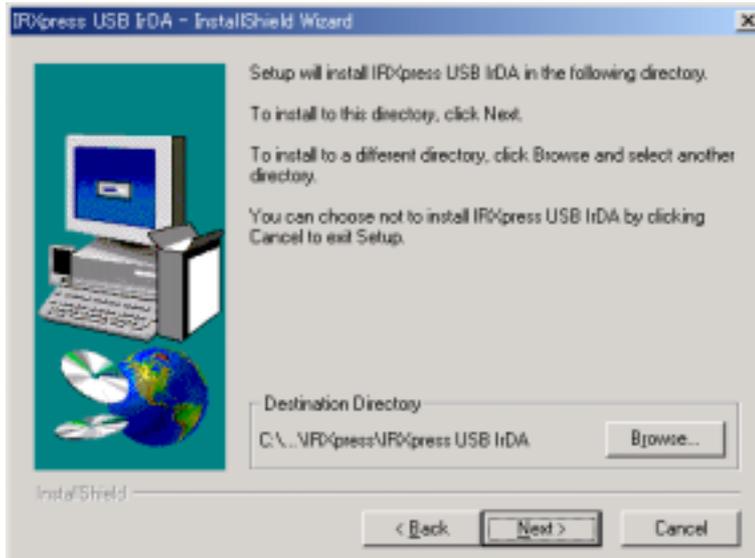


- (4) バックグラウンドが切り替わった後、セットアップ画面がポップアップ表示されますので、「Next」をクリックしてください。



以降の説明では、バックグラウンドを除いたポップアップ画面のみを表示します。

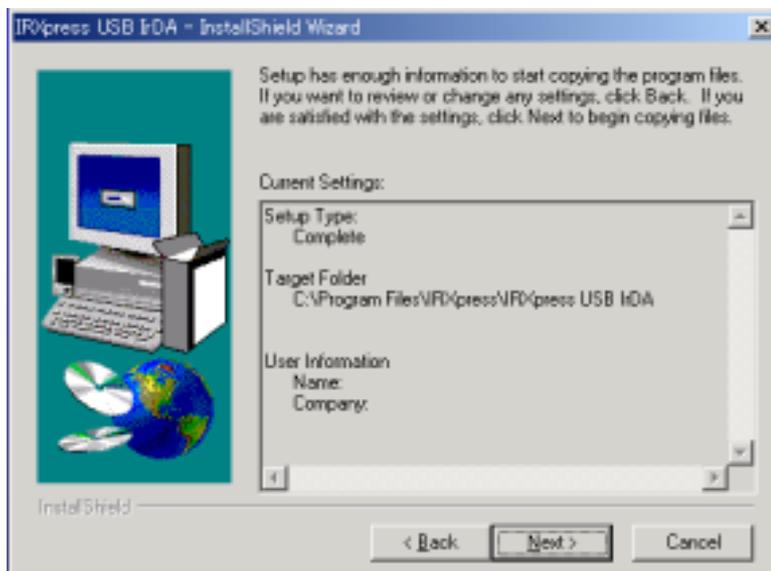
(5) インストール先を指定し、「Next」をクリックしてください。



特に指定のない場合は、自動的に”C:\Program File”の下に「IRXpress」「IRXpressUSB IrDA」フォルダが作られ、そこにインストールされます。

他のフォルダにインストールする場合は、「Browse」をクリックし、インストール先を指定してください。

(6) インストール先の設定条件が表示されますので、「Next」をクリックしてください。

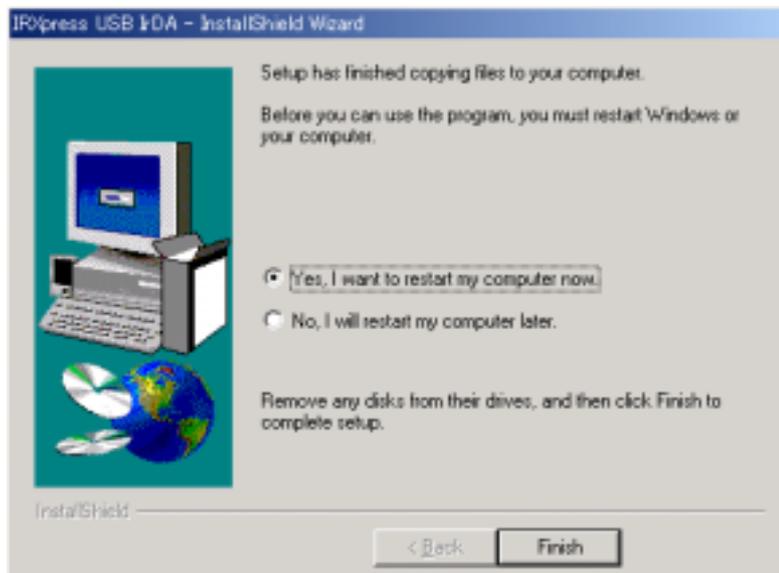


これ以降は、OS により手順が違いますので、各 OS 毎の説明を参照してください。
尚、各 OS 毎の説明は(7)~になります。

2 - 1 - 1 - 2 . Win2000 系

2 - 1 - 1 - 2 - 1 . インストール

(7) インストールが完了しましたので、「Finish」をクリックしてください。

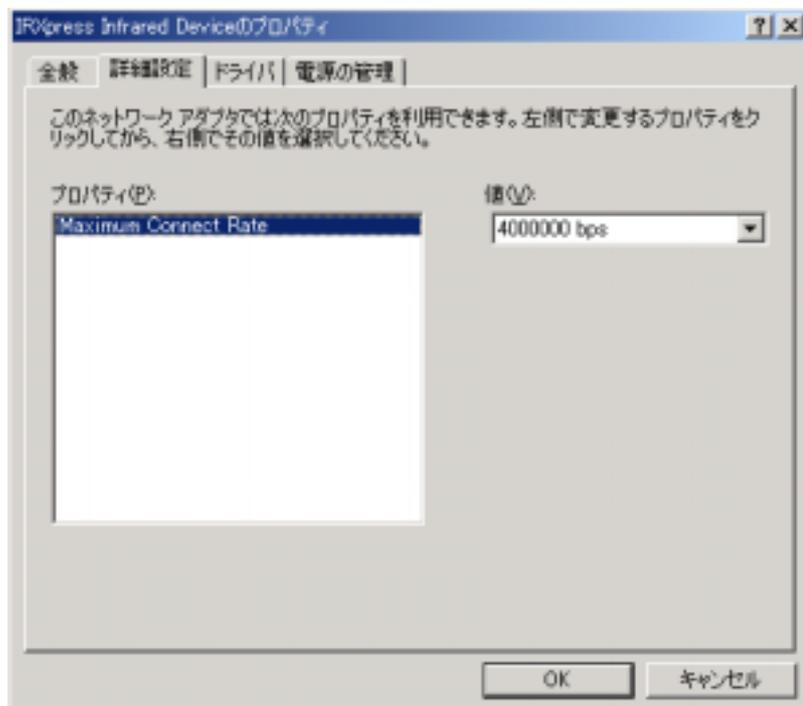


PC を再起動しますので、使用中の他のアプリケーションは終了させてください。
「Yes…」にマークし、PC の再起動を行ってください。

2 - 1 - 1 - 2 - 2 . 通信速度の設定

USB ドライバのインストール終了後、下記手順で通信速度の設定を行います。

- (1)「コントロールパネル」の「デバイスマネージャー」から、「IRXpress Infrared Device」のプロパティを開いて通信速度を選択し、「OK」をクリックする。



通信速度は、以下の通りに設定してください。

- ・ 単体接続の場合：「4Mbps」と「115.2Kbps」のみを使用してください。
- ・ 連鎖接続の場合：「115.2Kbps」のみを使用してください。

上記設定画面を表示するまでの手順は以下の通りです。

「コントロールパネル」 「システム」 システムのプロパティ画面で、ハードウェアを選択
デバイスマネージャを選択 赤外線デバイスの「IRXpress Infrared Device」を選択
詳細設定選択 上記設定画面を表示。

I/O BOX（電源 ON 状態）を接続した状態でしか、デバイスマネージャ上には表示されません。

上記設定を行う際は、I/O BOX を接続させてから行ってください。

注意:

- ・ 通信速度を変更する場合は、必ず他のアプリケーションは終了させてから行ってください。

2 - 1 - 1 - 3 . WinMe 系

2 - 1 - 1 - 3 - 1 . インストール

(7) 赤外線デバイスのインストール画面が表示されますので、「次へ」をクリックしてください。



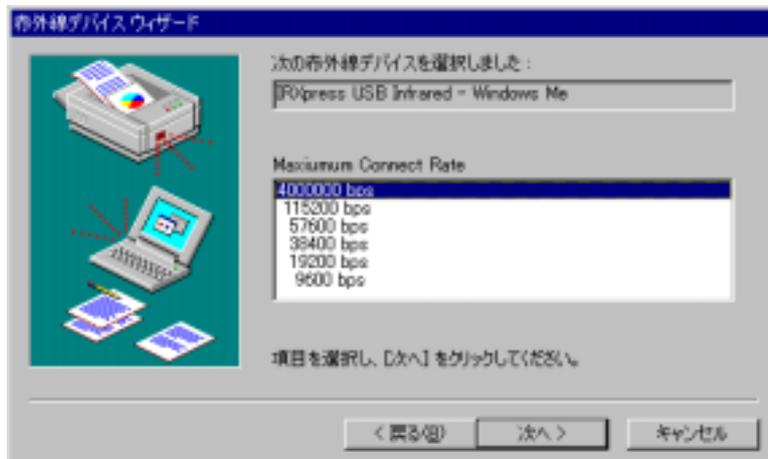
(8) 赤外線デバイスウィザード画面が表示されますので、設定を行った後「OK」をクリックしてください。



(設定)

- ・ 製造元 : CASIO Computer Co.,
- ・ 赤外線デバイス : インストールを行う PC の OS (WindowsMe) を選択してください。

(9) 通信速度を設定し、「次へ」をクリックしてください。



通信速度は、以下の通りに設定してください。

- ・ 単体接続の場合：「4 Mbps」と「115.2Kbps」のみを使用してください。
- ・ 連鎖接続の場合：「115.2Kbps」のみを使用してください。

(10) 通信ポートの設定を行って、「次へ」をクリックしてください。

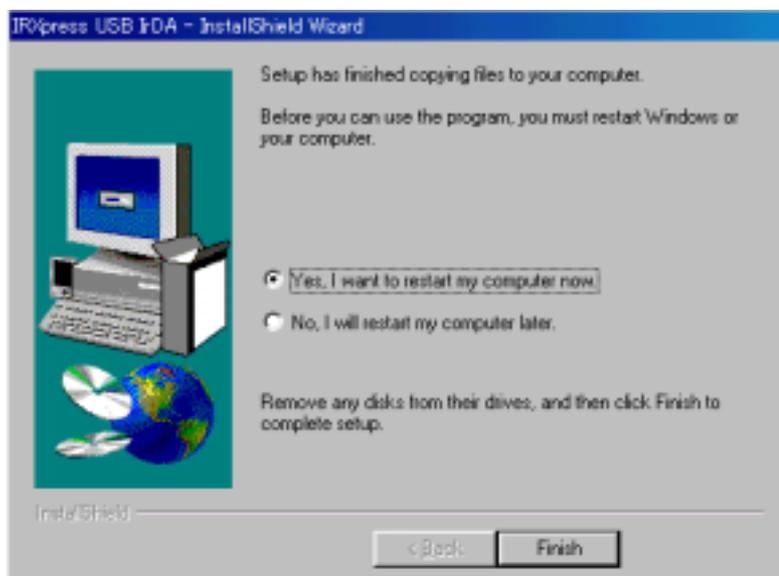


設定は「既定のポートを使う」を選択してください。

(11) 設定が終了しましたので、「完了」をクリックしてください。



(12) インストールが完了しましたので、「Finish」をクリックしてください。



PC を再起動しますので、使用中の他のアプリケーションは終了させてください。
「Yes…」にマークし、PC の再起動を行ってください。

2 - 1 - 1 - 3 - 2 .通信速度の設定

USB ドライバのインストール終了後、下記手順で通信速度の設定を行います。

- (1)「コントロールパネル」の「ネットワーク」から、「IRXpress USB Infrared - WindowsMe」のプロパティを開いて通信速度を選択し、「OK」をクリックする。

通信速度は、以下の通りに設定してください。

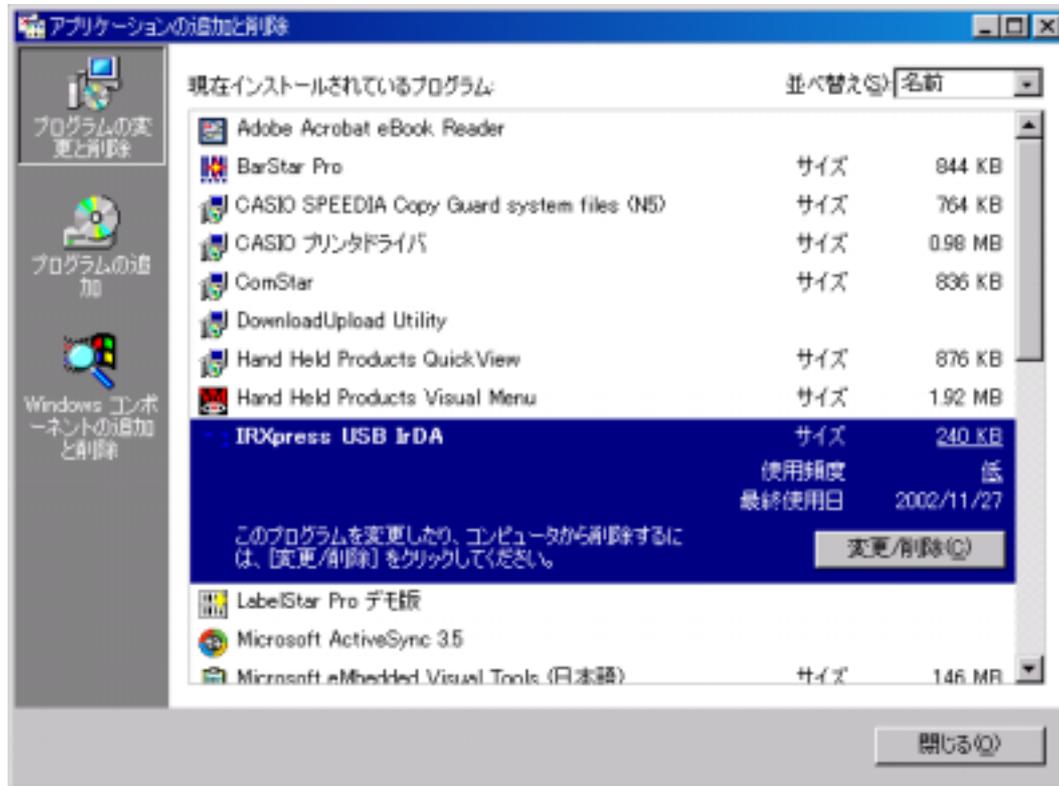
- ・ 単体接続の場合 : 「4 Mbps」と「115.2Kbps」のみを使用してください。
- ・ 連鎖接続の場合 : 「115.2Kbps」のみを使用してください。

設定方法と画面は、Win2000 系と同じですが、画面を表示するまでの手順が違いますのでご注意ください。手順は以下の通りです。

「コントロールパネル」 「ネットワーク」 ネットワークの設定画面で、「IRXpress USB Infrared WindowsMe」を選択 詳細設定を選択 設定画面を表示。

2 - 1 - 2 . アンインストール

アンインストールを行う場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」から「IRXpress USB IrDA」を削除してください。



アンインストール終了後は、PC の再起動を行ってください。
アンインストールは、I/O BOX の電源を落とした状態で行ってください。

2 - 2 . RS-232C ドライバインストール

RS-232C ドライバのインストール手順について説明します。

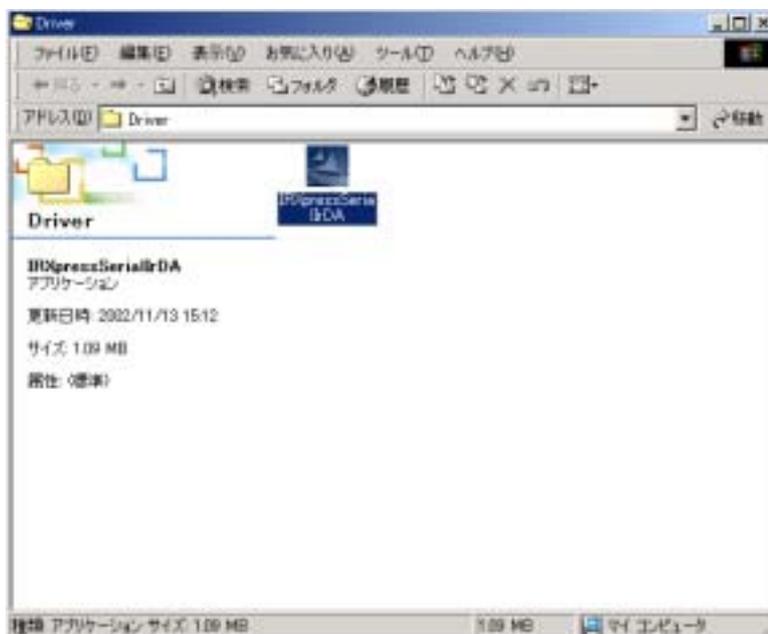
2 - 2 - 1 . インストール

以下の手順で、(1)～(6)の説明は全 OS 共通です。「4-2-1-1.全 OS 共通」をご覧ください。

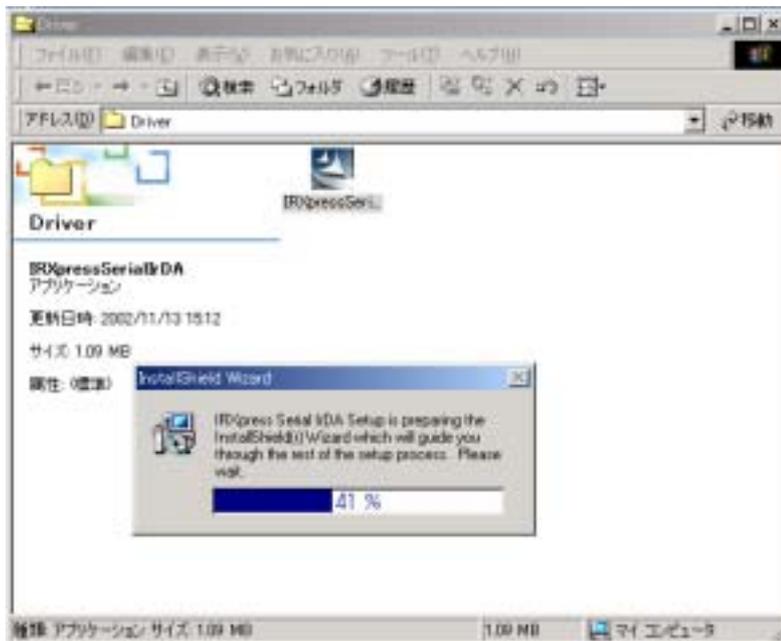
(7)以降の説明は、OS により異なりますので、「4-2-1-2.Win2000 系」と「4-2-1-3.WinMe 系」をご覧ください。

2 - 2 - 1 - 1 . 全 OS 共通

(1) 供給されたメディアから「IRXpressSerialIrDA.exe」を起動してください。



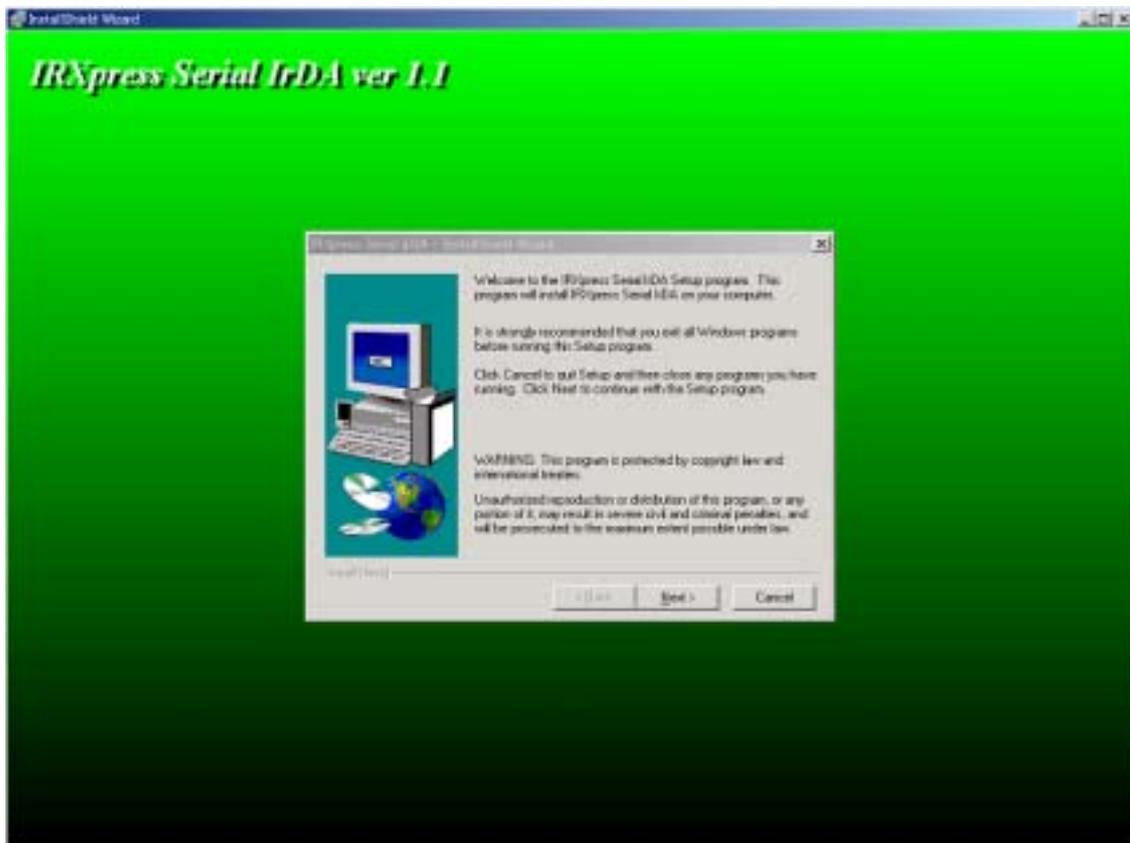
(2) 「IRXpressSerialIrDA.exe」を起動すると、「InstallShield Wizard」が準備されます。



(3) 準備が完了すると、バックグラウンドが「InstallShield Wizard」画面に切り替わります。

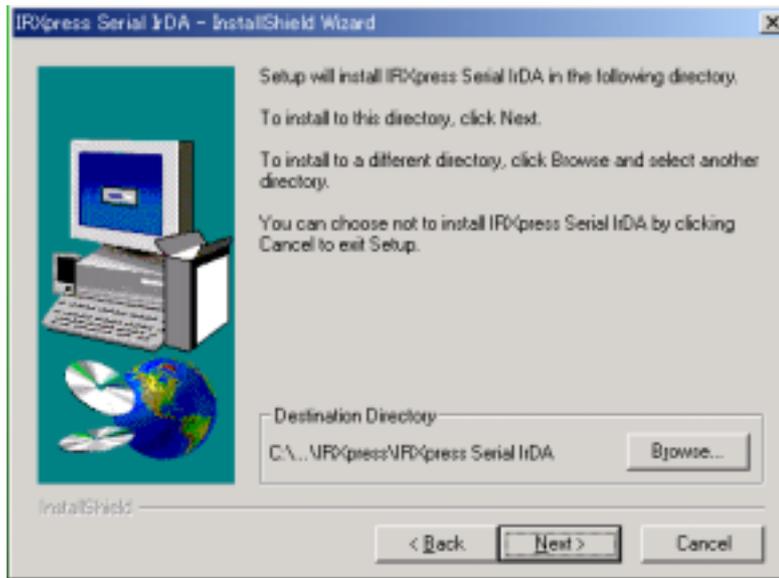


- (4) バックグラウンドが切り替わった後、セットアップ画面がポップアップ表示されますので、「Next」をクリックしてください。



以降の説明では、バックグラウンドを除いたポップアップ画面のみを表示します。

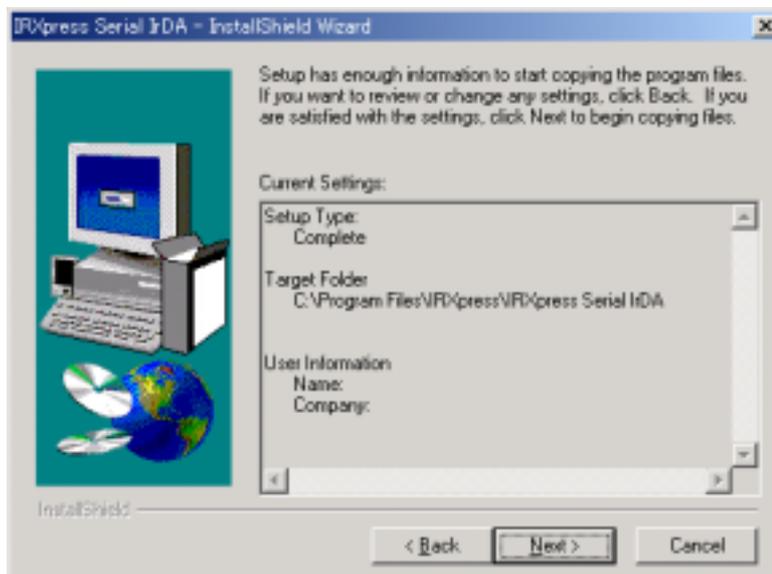
(5) インストール先を指定し、「Next」をクリックしてください。



特に指定のない場合は、自動的に”C:\Program Files”の下に「IRXpress」「IRXpress Serial IrDA」フォルダが作られ、そこにインストールされます。

他のフォルダにインストールする場合は、「Browse」をクリックし、インストール先を指定してください。

(6)インストール先の設定条件が表示されますので、「Next」をクリックしてください。

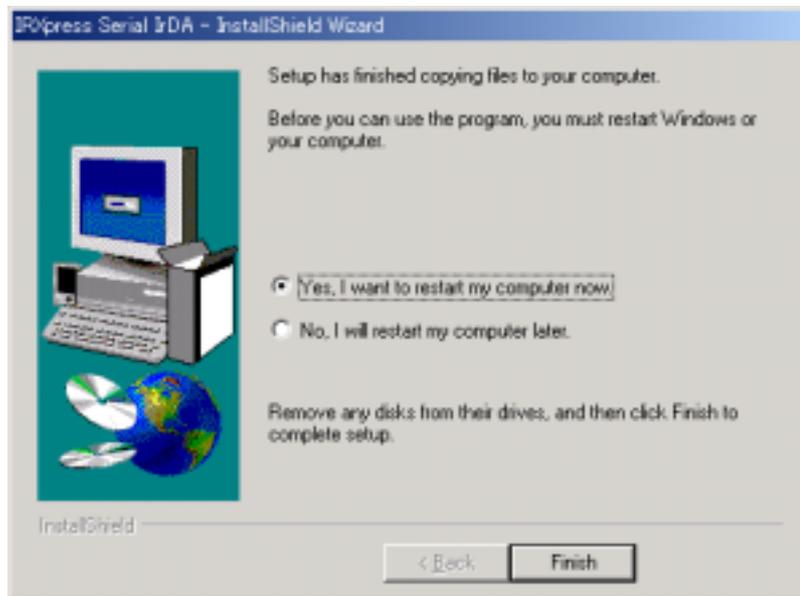


これ以降は OS により手順が違いますので、各 OS 毎の説明を参照してください。
尚、各 OS 毎の説明は(7)~になります。

2 - 2 - 1 - 2 . Win2000 系

2 - 2 - 1 - 2 - 1 . インストール

(7) インストールが完了しましたので、「Finish」をクリックしてください。



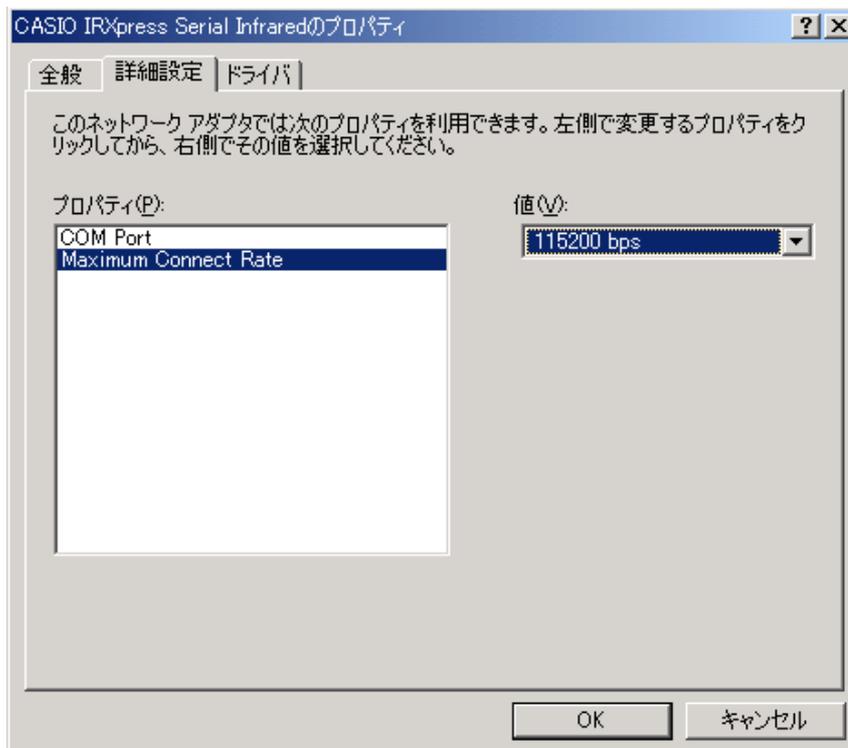
PC を再起動しますので、使用中の他のアプリケーションは終了させてください。
「Yes・・・」にマークし、PC の再起動を行ってください。

2 - 2 - 1 - 2 - 2 . 通信速度/ポートの設定

RS-232C ドライバインストール終了後、下記手順で通信速度の設定・変更を行います。

(1) 通信速度の設定

「コントロールパネル」の「デバイスマネージャー」から、「CASIO IRXpress Serial Infrared」のプロパティを開いて通信速度を選択し、「OK」をクリックする。



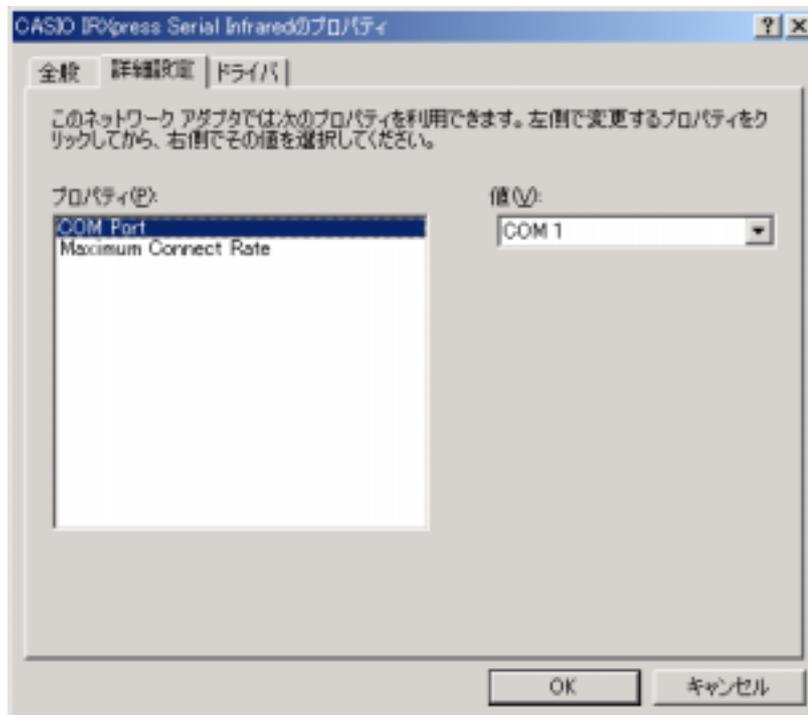
通信速度の設定では、「115.2Kbps」のみを使用してください。

上記設定画面を表示するまでの手順は以下の通りです。

「コントロールパネル」 「システム」 システムのプロパティ画面で、ハードウェアを選択
デバイスマネージャを選択 赤外線デバイスの「CASIO IRXpress Serial Infrared」を選択
詳細設定を選択 上記設定画面を表示。

(2) ポートの設定

「コントロールパネル」の「デバイスマネージャ」から、「CASIO IRXpress Serial Infrared」のプロパティを開いてポートを選択し、「OK」をクリックする。



上記 (1)(2) の設定画面を表示するまでの手順は以下の通りです。

- 「コントロールパネル」 「システム」 システムのプロパティ画面で、ハードウェアを選択
- デバイスマネージャを選択 赤外線デバイスの「CASIO IRXpress Serial Infrared」を選択
- 詳細設定を選択 上記設定画面を表示。

2 - 2 - 1 - 3 . WinMe 系

2 - 2 - 1 - 3 - 1 . インストール

(7) 赤外線デバイスのインストール画面が表示されますので、「次へ」をクリックしてください。



(8) デバイスの設定画面が表示されますので、デバイスを指定し、「OK」をクリックしてください。



(設定)

- ・ 製造元 : CASIO Computer Co.,
- ・ 赤外線デバイス: インストールを行う PC の OS (WindowsMe) を選択してください。

(9) ポートを指定し、「次へ」をクリックしてください。



(10) 通信速度を指定し、「次へ」をクリックしてください。



通信速度の設定では、「115.2Kbps」のみを使用してください。

(11) 通信ポートの設定を行って、「次へ」をクリックしてください。

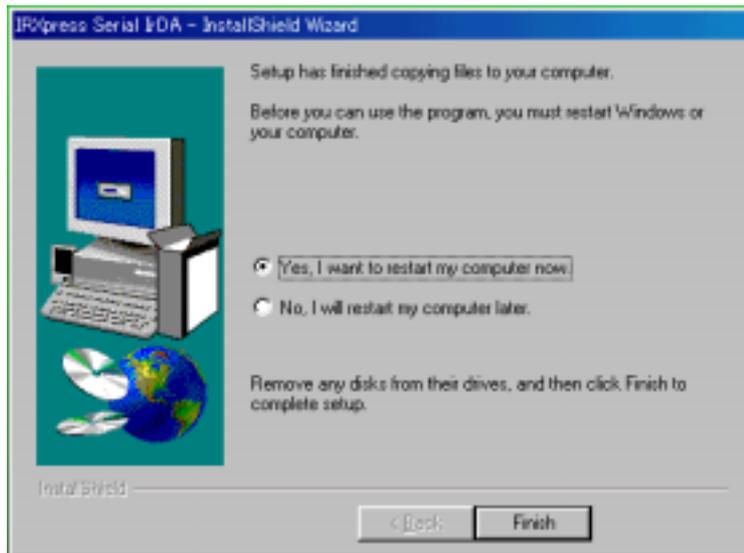


設定は「既定のポートを使う」を選択してください。

(12) 設定が終了しましたので、「完了」をクリックしてください。



(13) インストールが完了しましたので、「Finish」をクリックしてください。



PC を再起動しますので、使用中の他のアプリケーションは終了させてください。
「Yes…」にマークし、PC の再起動を行ってください。

2 - 2 - 1 - 3 - 2 . 通信速度/ポートの設定

RS-232C ドライバインストール終了後、下記手順で通信速度の設定・変更を行います。

(1) 通信速度の設定

「コントロールパネル」の「ネットワーク」から、「IRXpress Serial Infrared - WindowsMe」のプロパティを開いて通信速度を選択し、「OK」をクリックする。

通信速度の設定では、「115.2Kbps」のみを使用してください。

設定方法と画面は、Win2000 系と同じですが、画面を表示するまでの手順が違いますのでご注意ください。手順は以下の通りです。

「コントロールパネル」 「ネットワーク」 ネットワークの設定画面で、「IRXpress USB Infrared WindowsMe」を選択 詳細設定を選択 「Maximum Connect Rate」を選択 設定画面を表示。
設定後は、画面の表示に従い、PC の再起動を行ってください。

(2) ポートの設定

「コントロールパネル」の「ネットワーク」から、「IRXpress Serial Infrared - WindowsMe」のプロパティを開いてポートを選択し、「OK」をクリックする。

設定方法と画面は、Win2000 系と同じですが、画面を表示するまでの手順が違いますのでご注意ください。手順は以下の通りです。

「コントロールパネル」 「ネットワーク」 ネットワークの設定画面で、「IRXpress USB Infrared WindowsMe」を選択 詳細設定を選択 「COM Port」を選択 設定画面を表示。
設定後は、画面の表示に従い、PC の再起動を行ってください。

2 - 2 - 2 . アンインストール

アンインストールを行う場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」から「IRXpressSerialIrDA」を削除してください。

アンインストールの手順は、USB の場合と同じです。

「4-1-2.アンインストール」を参照してください。

アンインストール終了後は、PC の再起動を行ってください。

アンインストールは、I/O BOX の電源を落とした状態で行ってください。

3 . WinNT4.0 ドライバのインストール

B.S./B.B.IO ボックスは、パソコンの赤外線デバイスとして扱われますが、WindowsNT4.0 は、基本的に赤外線を持っていません。

そのため、赤外線を使用できるようにするドライバをインストールする必要があります。

下記(1)、(2)の手順でインストールを行います。

(1)WindowsNT4.0 ドライバのインストーラ(QuickBeamSuite.exe)を起動し、画面の指示に従ってインストールします(PCを再起動します)。

(2)もう一度PCを再起動します。

なお、接続はRS-232Cでのみ可能です。

WindowsNT4.0 では、このドライバのみインストールし、前章のドライバはインストールしないで下さい。

4. アップダウンロードシステム (LMWIN)

4 - 1. LMWIN のインストール

LMWINは以下の要素から構成されています。

ファイル名	注意事項
LMWIN32.EXE	ダウンロード / アップロード ユティリティ 実行形式 (GUI モード)
driver32.dll	RS232C ドライバ
hfc32.dll	コマンド解析ドライバ
lman32.dll	接続監視ドライバ
scsidrv.dll	SCSI 接続のための予備ファイル
tcpip.dll	TCP/IP 接続のための予備ファイル
LMWIN.INI	実行初期設定ファイル
DEVICE.INI	コンフィギュレーションファイル
その他	アップダウンロード ユティリティに必要なファイル/ヘルプファイル

表 4 - 1 LMWIN の構成要素

すべての構成要素は 1 つのパッケージで供給されます。
全インストールに必要なファイルとライブラリはすべて、Setup.exe プログラムにより生成されます。

セットアップを開始するには CD の LMWIN フォルダにある Setup.exe を起動します。



起動後はセットアッププログラムの指示に従ってください。

4 - 2 LMWINの操作

LMWINを起動すると、次の画面が表示されます。

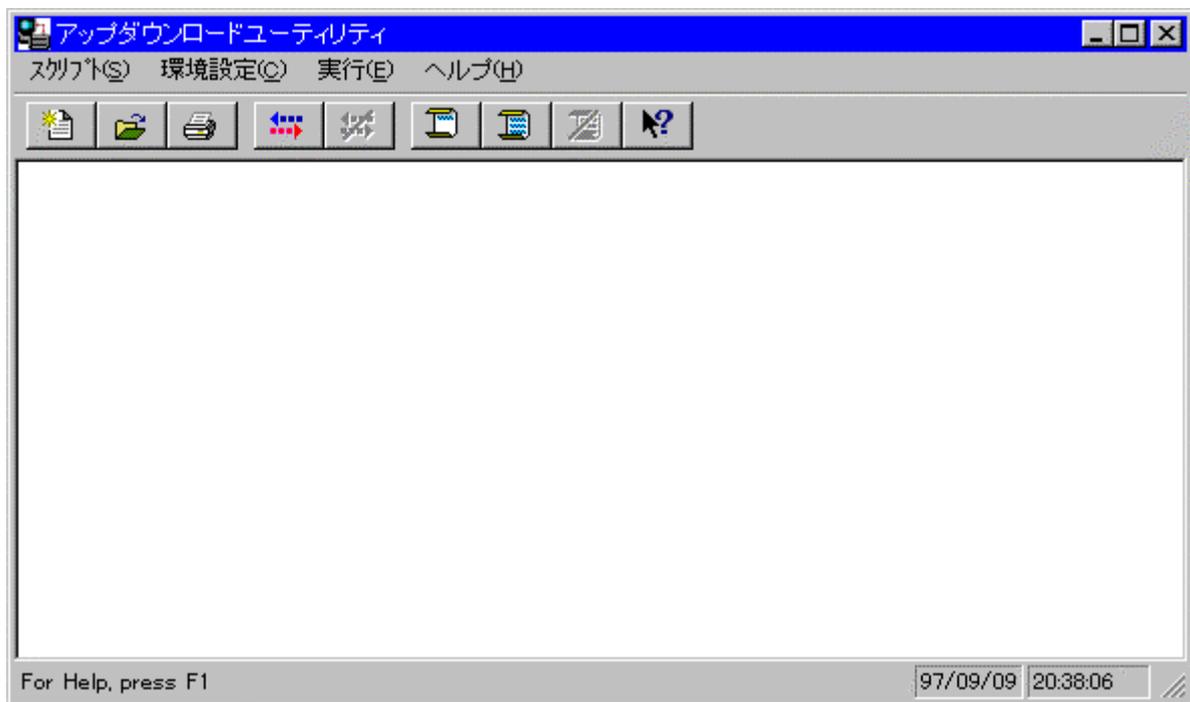


図4 - 1 LMWINのメインメニュー画面

4 - 2 - 1 LMWINのスクリプト作成

まず、スクリプトメニューから新しいスクリプトを作成します。

「新規作成サブメニューを」選択してください。

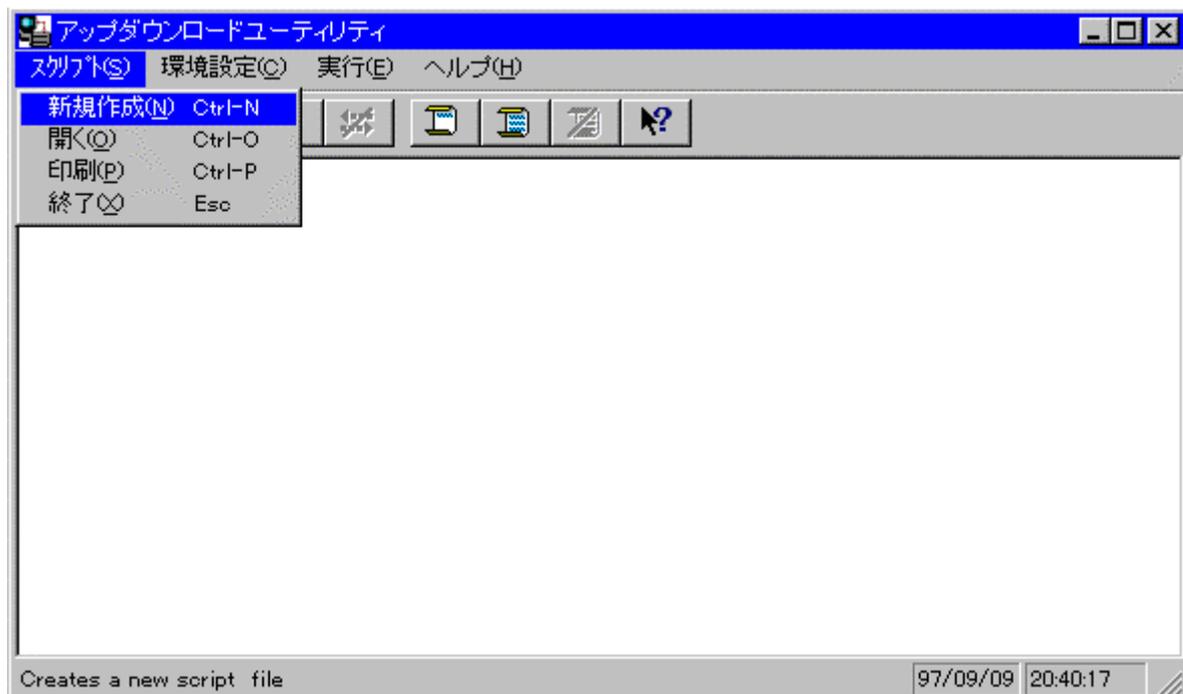


図4 - 2 LMWINのスクリプトメニュー画面

4 - 2 - 2 LMWINのスクリプト新規作成

ここで「新規作成」サブメニューオプションを選ぶと、下の画面になります。
(この画面は「追加」を押す前のコマンドとオプションが選択された画面です)

この画面よりコマンドボックスから実行するコマンドを選びます。
コマンドを選択すると、コマンドと一致しているオプションを入力/選択しなければなりません。例えば、もし選ばれたコマンドが send ならば、「ファイル」、「格納ディレクトリ」のオプションを入力し、必要であれば「オプション」を選択します。
その後、[追加] ボタンを押す事によりスクリプトに追加されます。

スクリプトファイルの格納は、述「LMWINの環境設定」で示される「作業フォルダ」にのみ行えます。それ以外のフォルダには格納出来ませんので、必要に応じて、事前に作業フォルダを変更して下さい。



図4 - 3 . LMWINのスクリプトファイル新規作成画面

この画面上のボタンの意味は次の通りです。

- | | |
|------------|------------------------------------|
| [追加] | ... コマンドを「スクリプト」に追加します。 |
| [結合] | ... 前のスクリプトコマンドに結合します |
| [戻る] | ... メイン画面に戻ります。スクリプトファイルのセーブはしません。 |
| [保存] | ... スクリプトファイルを上書き保存します。 |
| [名前を付けて保存] | ... 名前を付けて保存します。 |
| [参照] | ... ユーザがHTに送るファイルを選択できます。 |

4 - 2 - 3 LMWINのスク립トを開く

新規作成の「開く」サブメニューオプションを選ぶとスク립トファイル選択画面が表示されます。



図4 - 4 スクリプトファイルを開く画面その1

スク립ト選択画面でスク립トファイルを選択すると次の画面になります。



図3 - 5 スクリプトファイルを開く画面その2

「スク립トファイル」に選択したスク립トファイルの内容が記述されます。

4 - 2 - 4 LMWINの環境設定

次に環境設定メニューの「通信設定」サブメニューを選択します。
これは通信設定画面を表示するものです。

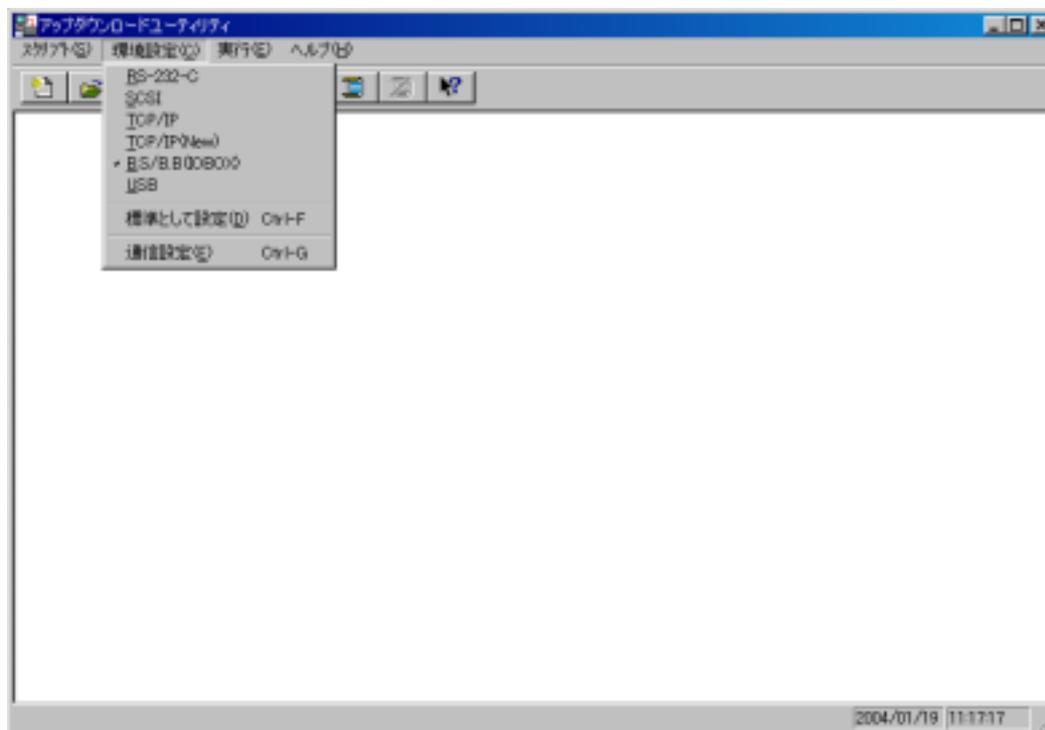


図 4 - 6 LMWIN環境設定メニュー

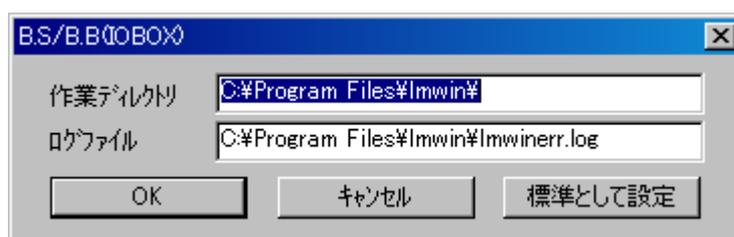


図 4 - 7 LMWIN通信設定画面

項目が選択されて、[OK] ボタンがクリックされたら、設定はデバイス設定ファイル「DEVICE.INI」に保存されます。

4 - 2 - 5 LMWINの実行

通信と環境の設定が完了したら、実行メニューを表示します。

「接続」「開始」サブメニューを選択してください。

サーバモードを開始します。

サーバモードは、ハンディターミナル側からの接続要求（FLCE プログラムで送受信等の指定を行う）で通信が始まります。

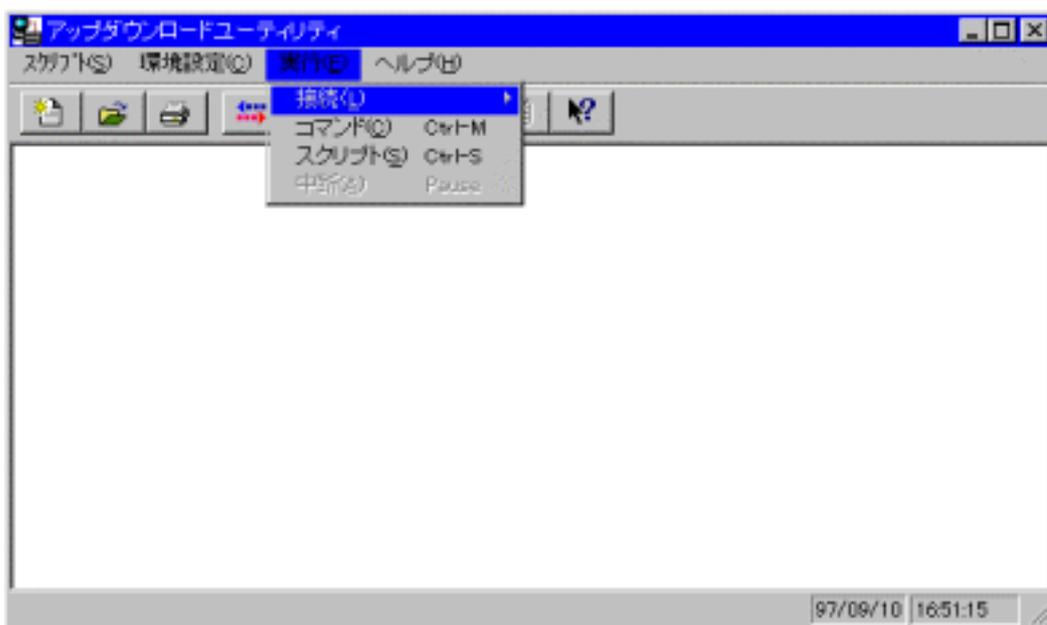


図4 - 8 LMWIN実行メニュー

サーバモードを開始することにより通信を初期化して、HTから来る接続要求の受け付け状態へアップダウンロードユーティリティを移行させます。



図4 - 9 LMWINサーバモード開始

4 - 2 - 6 LMWINコマンド

コマンド画面では1種類のコマンドを実行する事が出来ます。
コマンド実行時はモード設定を行なう事が出来、1回モードが選択されると、HTとの通信接続は切り離しません。
また、連続モードが選択されると、「中断」サブメニューが選択されるまで繰り返し実行します。デフォルトは連続モードです。

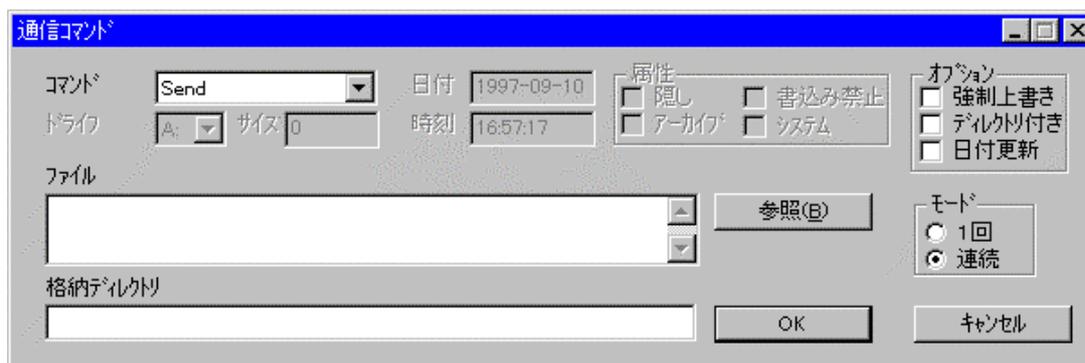


図4 - 1 0 LMWINサーバーモードコマンド

4 - 2 - 7 スクリプト実行

スクリプト選択画面では1種類のスクリプトを選択できます。
選択したスクリプトを実行します。



図4 - 1 1 LMWINサーバーモード実行スクリプト選択画面

4 - 2 - 8 中断

中断サブメニューは選択すると通信を中断し、スクリプトファイルの作成 / 修正と環境設定を行なうことが出来るようになります。



4 - 2 - 9 インストール開始

DT - 300をI/Oボックスに載せて、次の手順でDT - 300本体側のインストール準備を行い、インストールを開始します。

- a . 「S」キーと「0」キーを押しながら電源をオンします(システムメニュー起動)。
- b . 「4」キーを押します(「4：テンソウ」メニューが起動)。
- c . 「4：プロトコル」を設定します。
FLINKを選択します。
- d . 「3：ユーティリティ」を選択します。
「3」キーを押すと「ユーティリティ」メニューが表示されます。
- e . 「1：ファイルテンソウ」を選択します。

以上で通信待機状態になります。

PC側が起動していれば通信が開始されます。

ダウンロード完了後は「クリア」キーを押し、「システムメニュー」のトップページに戻り、「1：APキドウ」を行うと、アプリケーションプログラムが起動します。

5. 注意事項

アップダウンロードを行う際の注意事項に関して説明します。

- (1) PC に USB/RS-232C のドライバをインストールする際は、クリーンな状態の PC にインストールしてください。
- (2) WindowsMe は、同一 PC 上で USB あるいは RS-232C のどちらか一つの接続しか動作しません。必ず、別のドライバがインストールされていないことを確認してから、インストールを行ってください。(別のドライバがインストールされている場合は、必ずアンインストールを行ってください。)

ドライバを変更する際の手順は、次の通りです。

RS-232C 接続のセットアップ状態を USB に変える為には、必ず RS-232C ドライバをアンインストールしてから、USB ドライバをインストールしてください。(USB RS-232C の場合も同様です。)

- (3) ドライバのインストール/アンインストール終了後は、PC を再起動させてください。
アンインストールは、I/O BOX の電源を落とした状態で行ってください。
- (4) Windows2000/XP と WindowsMe では、ドライバのインストールを行う際、手順に違いが発生しますので、ご注意ください。
- (5) USB で接続する場合、I/O BOX の電源を ON にすることで、コントロールパネルの赤外線デバイスに USB デバイスが表示されます。
- (6) I/O BOX のディップスイッチを変更する際はよく確認し、必ず I/O BOX の電源を切った状態で行ってください。
また、ディップスイッチを変更する際は、設定を間違えない様注意してください。
- (7) 通信中の I/O BOX の電源 OFF やケーブル抜きは行わないでください。
- (8) 連鎖接続を行っている場合、HT 側で“ActiveSync”を同時に接続させようとするとエラーになります。“ActiveSync”を動かす場合は、1台ずつ動作させてください。
- (9) インストール終了後にコントロールパネルから通信速度の設定を変更する場合は、必ず、ActiveSync 等のアプリケーションを終了させてから行ってください。
- (10) B.S I/O BOX を用いて Win2000 系で通信を行う場合は、必ず USB か RS-232C のどちらか一方のみを使用してください。
- (11) USB ドライバのインストール時/インストール後の通信速度の変更の際は、以下の通りの設定にしてください。
 - ・単体接続の場合 : 「4 Mbps」と「115.2Kbps」のみを使用してください。
 - ・連鎖接続の場合 : 「115.2Kbps」のみを使用してください。
- (12) HT の設定・使用方等については、HT のマニュアル(仕様書)等を参照してください。

最終ページです。